

2023年12月期決算説明会



株式会社アシックス
2024年2月13日

© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

会長CEOの廣田康人でございます。
本日はご多用のなか、ご参加いただきましてありがとうございます。

初めに、私からは中期経営計画2023の振り返りなどをご説明いたします。

その後、社長COOの富永より2024年度についてご説明し、
決算の詳細につきましてはCFOの林からご説明いたします。

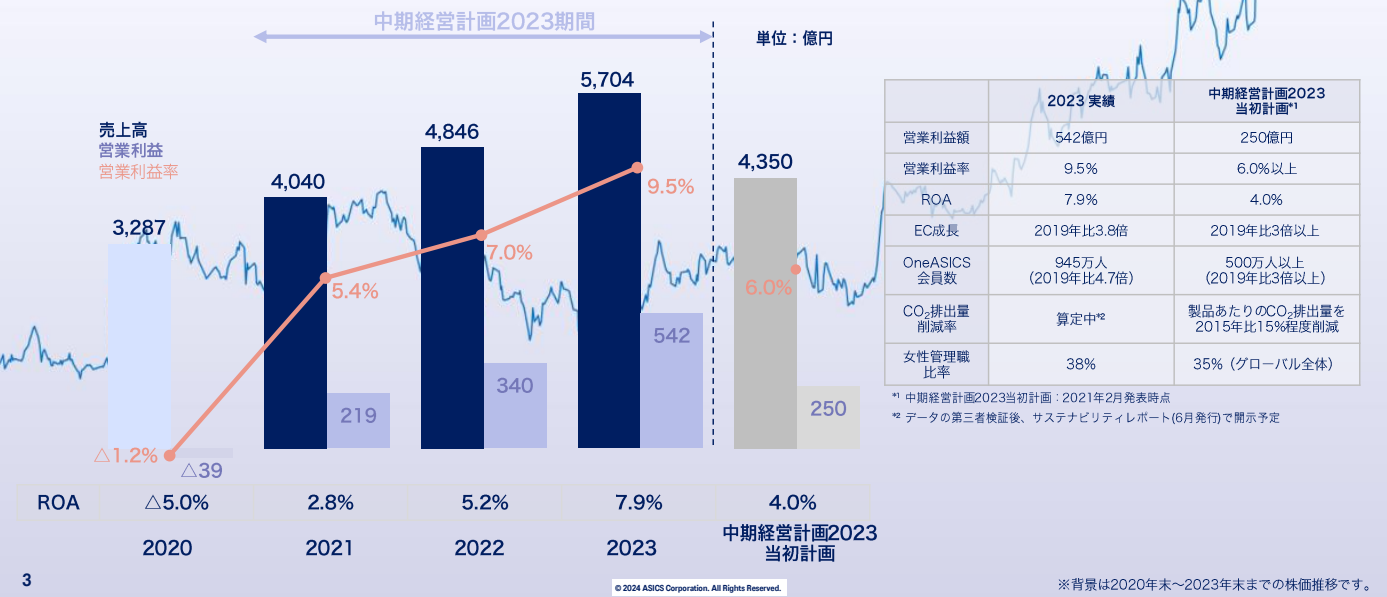
なお、2月9日に開催しました決算説明会の様子はホームページにアップロードしておりますので、お時間のある時にご覧ください。

代表取締役会長CEO 廣田 康人



© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

中期経営計画2023の目標を大幅達成



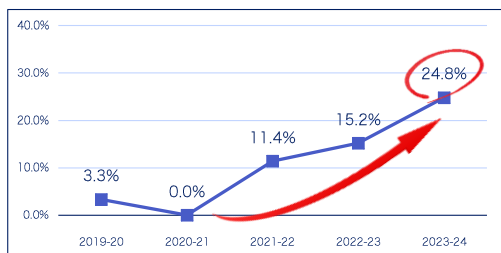
まずは中期経営計画2023の振り返りをさせていただきます。

中期経営計画2023の最終年度である2023年の実績は当初計画を大幅に達成しました。

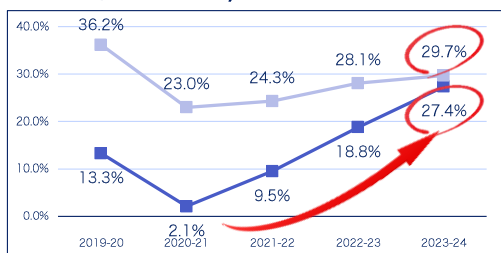
一言でいうと、「アシックスは完全に成長軌道に乗り、今後もさらに成長することができるようになった」ということです。

- ✓ 年末年始の主要駅伝大会のシェアが伸長。
- ✓ 足元でもアシックスのシューズを着用した選手が快挙を達成。

＜新年の大学駅伝＞



＜年末の高校駅伝 男子/女子＞



□ 契約アスリートの活躍

前田穂南選手

大阪国際女子マラソンにて
2時間18分59秒の記録で2位を獲得。
アジア新記録、日本新記録、
MGCファイナルチャレンジ設定記録を突破。
日本記録更新は、2005年以来19年ぶりの快挙。



桐生祥秀選手

世界室内陸上ツアー2024ゴールド大会にて
6.53秒の記録で男子60m優勝。
日本新記録を更新。



両選手とも、当社シューズMETASPEEDシリーズを着用し、新記録を更新

© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

ランニングで頂上を奪還するCプロジェクトにつきましては、引き続き私の管掌として、ランニングでNo.1をとることを目指してまいります。

年末年始に行われた各種駅伝大会において、アシックスのシェアが引き続き向上しております。

前田穂南選手、桐生祥秀選手お二方とも、METASPEEDシリーズのシューズを着用し、日本記録の更新という快挙を達成されました。
おめでとうございます。

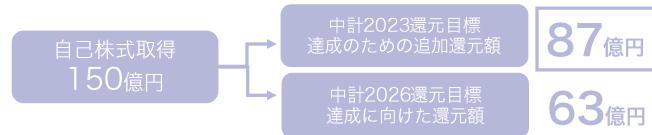
株主還元と資本政策の考え方

- ✓ 好調な業績により1株当たり期末配当を40円に増配、年間配当は1株当たり65円と過去最高に(期初予想は44円)。
- ✓ 「中期経営計画2023」の株主還元目標達成に向け、総額150億円を上限とする自己株式取得枠を設定。
- ✓ 連結資本水準の最適化に向けた取組みも同時に推進。

□ 中期経営計画2023における株主還元

安定的な配当に加え、期間を通して50%以上を総還元性向を実現

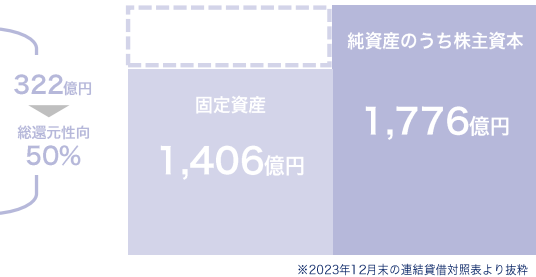
	2021年 12月期	2022年 12月期	2023年 12月期	
1株当たり 年間配当	24円	40円	65円	総累計
配当金総額(億円)	43	73	119	235
親会社株主に帰属する 当期純利益(億円)	94	198	352	644
配当性向	45.7%	36.9%	33.8%	36.5%



□ 自己株式取得による資本水準最適化に向けた取組み

下記にかかる戦略的観点から150億円の自己株式を取得

- ・ アシックスのビジネスモデルに照らした固定資産と株主資本のバランス
- ・ 中期経営計画2026期間中における利益の積み上げ、株主還元目標、および成長に向けた資本的支出の見通し
- ・ 足元における分配可能額



続いて、株主還元と資本政策の考え方についてです。

アシックスは、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題のひとつとして認識しております。

2023年度実績が昨年11月に開示した連結業績予想を上回る着地となり、営業キャッシュフローが非常に高水準であったことから従来予想の1株当たり期末配当35円から、40円に増配します。
この結果、年間配当を期初予想の44円から、65円へと上方修正し、過去最高額の更新を計画しています。

加えて、総額150億円を上限とする自己株式取得枠を設定することで、中期経営計画2023における株主還元目標を達成する見込みです。
こちらの自己株式の取得により、連結ベースの資本水準の最適化も目指します。

「中期経営計画2026」でも期間内における連結総還元性向50%の達成を目指し、累進配当の継続を前提とした利益配分及び手元資金や投資状況などを考慮の上追加での株主還元を柔軟に検討してまいります。

私からの説明は以上となります。
続きまして、COOの富永よりご説明させていただきます。

社長COO 富永 満之



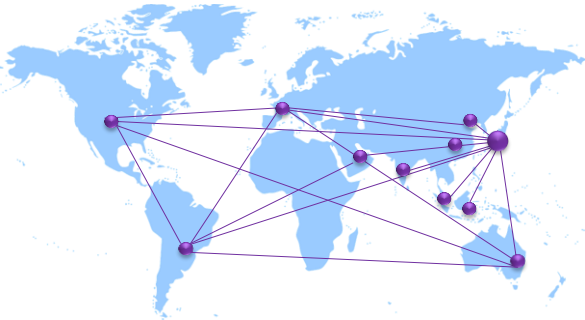
© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

- ✓ 中期経営計画2026において、Global Integrated Enterpriseへ変革。
- ✓ 「デジタル×グローバル」をさらに推進し、グループ一体となって持続的な成長を目指す。

Global Intergrated Enterpriseとは

本社・地域事業会社との連携強化による有機的なカテゴリー経営体制の構築

- ・ 地域事業会社CEOは社長直下に配置し、グローバル経営会議を開催
- ・ 全体最適化に向けて、地域事業会社間のコミュニケーションを活性化
- ・ 人財、ITプラットフォーム、データを全世界でダイナミックに活用



2024年の主な取組み

サプライチェーン改革
・ 本社・地域事業会社連携のもと、カテゴリー別の需給管理機能を強化 ・ 生産・販売のデータ連携によるサプライチェーンマネジメントの高度化
ブランド・DTC戦略
・ データインテグレーションの実行 ・ エコシステムのグローバルモデルケースを構築
人的資本戦略
・ グローバル共通の評価制度の整備 ・ グローバルでのタレントマネジメント戦略の策定

ここからは、わたくし富永より、ご説明をさせていただきます。

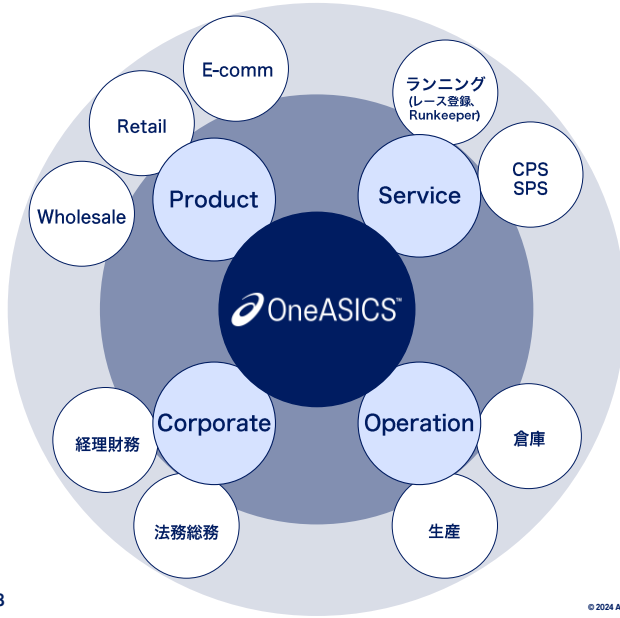
中期経営計画2026における大方針は、「Global Integrated Enterpriseへの変革」です。

本社、世界各地の事業会社、生産拠点との連携をこれまで以上に強化します。
2024年の主要な取り組みは、3つあります。
1つ目は、サプライチェーン改革、2つ目は、ブランド・DTC戦略、3つ目は、人的資本戦略です。

これらにより、「グローバル×デジタル」を実践し、持続的な成長を目指します。

ブランドへの取り組み：OneASICS 経営

全ての起点をOneASICSとし、OneASICS会員数3,000万人、LTV向上、高粗利率 x DTC比率40%以上を実現する



1 OneASICS会員拡大

- ・ DTCオムニチャネル推進
- ・ 全社レベルでのタッチポイント創出とエコシステム展開地域拡大

2 OneASICS会員プログラムの価値向上

- ・ 会員を階層分けしたASICS独自のロイヤリティプログラムの構築
- ・ リワードプログラムによる出走権・イベントへの参加・限定商品へのアクセスなど差別化されたサービスの提供

3 データの活用

- ・ パーソナライズされたマーケティングコミュニケーションの実現
- ・ 製品やサービス向上に向けたデータのフル活用

ブランド強化への取り組みとして、OneASICS経営を全社一丸となって進めます。

まず、OneASICS会員をリテール、ECだけではなく、施設、OneASICS債、その他サービスで拡大します。

2つ目は、OneASICSのサービス、イベント参加、リワードなどを活用してプログラム全体の価値を向上させます。

3つ目は、データ分析をしっかりと行い、マーケティング、製品、サービスの向上に取り組めます。

✓ 人的資本へのさらなる投資強化により、「デジタル×グローバル」の推進を加速。

臨時一時金のグローバル従業員への支給

中期経営計画2023の大幅達成を受け、グローバルの全従業員を対象に臨時一時金（約10万円）を支給

プロフィット・シェア型賞与の導入

全従業員が、資本コストを自分ごととして捉えると共に、会社として利益を従業員にしっかりと還元するために、プロフィット・シェア型賞与※の導入を決定

※資本コストを上回る利益の一部を原則として全ての従業員に分配する仕組み

2024年の主な取組み



譲渡制限付株式インセンティブ制度の導入

従業員の目線を資本市場と合わせることが目的に、持株会を通じた譲渡制限付株式の取得機会を創出するインセンティブ制度を導入

その他の施策

- ・2024年度入社以降の新卒初任給の引き上げ（例：院卒 29万円、博士 32万円）
- ・業績連動賞与のターゲット%の引き上げ など

アシックスでは、人的資本への投資を強化していきます。

「中期経営計画2026」の戦略を達成するためには、その戦略を実行する人財が必要です。

人財への投資は、中長期的な会社の成長にとって必要不可欠な戦略投資であり、従業員にも還元していく仕組みを構築していきます。

廣田からも説明がありました通り、2023年は「中期経営計画2023」の最終年度であり、その目標を大きく達成した年でした。

目標達成のために尽力してくれたグローバルの従業員全員を対象に、臨時一時金を支給します。

また、プロフィット・シェア型賞与の導入や、持株会を通じた譲渡制限付株式インセンティブ制度を導入いたします。

他にも、2024年度以降に入社する新卒の初任給の引き上げなどを行います。これにより、優秀な人財を獲得し、彼らが成長できる環境を提供することで、さらなる企業価値の向上を目指していきます。

2024年12月期 連結業績予想

- ✓ 2024年12月期は、外部環境の不透明さがあるものの、パフォーマンスランニングを軸に、スポーツスタイルの足元の好調な状況を考慮した結果、売上高および各段階利益はいずれも過去最高となる見込み。
- ✓ カテゴリーではコアパフォーマンススポーツ、スポーツスタイル及びオニツカタイガーが、地域別では日本、中華圏及び東南・南アジアが順調に推移する見通し。
- ✓ なお、当期売却したホグロフス事業の影響を除くと売上高は7.0%成長（為替除く）、当期純利益は27.0%増（為替除く）。
- ✓ 剰余金の配当は、当期の業績やキャッシュ・フローの状況を総合的に勘案した結果、過去最高となる年間70円を見込む。

(単位：億円)	FY23 実績	FY24 予想	増減率	(ご参考) 為替影響除く増減率
売上高	5,704	5,900	+3.4%	+4.8%
営業利益	542	580	+7.0%	+8.9%
営業利益率	9.5%	9.8%	+0.3ppt	-
経常利益	506	530	+4.6%	+6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	352	360	+2.1%	+4.2%

配当金	中間	期末	通期
2023年12月期	25.0円	40.0円	65.0円
2024年12月期	35.0円	35.0円	70.0円

為替レート	USD	EUR	RMB
2023年12月期	140.45円	152.24円	19.86円
2024年12月期	140.00円	150.00円	19.50円

次に、2024年12月期 連結業績予想についてご説明いたします。

外部環境の不透明さがあるものの、パフォーマンスランニングを軸に、スポーツスタイルでも好調が見込まれることから、売上高及び各段階利益はいずれも過去最高となる見込みで、売上高は5,900億円、営業利益は580億円を予想しています。

私からの説明は以上となります。
続きまして、CFOの林よりご説明させていただきます。

常務執行役員CFO 林 晃司



© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

林でございます。2023年12月期 連結業績からご説明させていただきます。

売上高	5,704億円 (前期 4,846億円)	前期比 : +858億円 +17.7% 為替影響除く : +549億円 +11.3%
------------	-----------------------------	---

- ◆ 過去最高、前期比で+17.7%、為替影響を除いても+11.3%の成長。
- ✓ アパレル除く全カテゴリーで2桁以上成長したアシックスジャパンで+26.0%。
- ✓ 弱い経済指標が見られる中国でも、全カテゴリーで増収、力強く成長した中華圏で+24.1%。
- ✓ インド、マレーシア、インドネシアなどが大きく牽引した東南・南アジアで+46.9%。

営業利益	542億円 (前期 340億円)	前期比 : +202億円 +59.4% 為替影響除く : +177億円 +52.3%
-------------	-------------------------	---

- ◆ 過去最高、前期比50%超の増益。
- ✓ 粗利益率は52.0%。仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化やチャネルミックスの良化などが奏功し、前期から2.3ppt改善。
- ✓ 営業利益率は前期の7.0%から9.5%へ (+2.5ppt)。

当期純利益	352億円 (前期 198億円)	前期比 : +154億円 +77.4% 為替影響除く : +136億円 +68.8%
--------------	-------------------------	---

- ◆ 過去最高、前期比77%超の増益。
- ✓ 日本・北米で収益構造改善損を約32億円計上。
- ✓ Haglöfs ABの株式の売却により関係会社株式売却益を約65億円計上。

2023年は中期経営計画2023の締めくくりの年でしたが、売上高及び各段階利益はいずれも過去最高となりました。

売上高は5,704億円。前期比で17%のプラス成長となり、為替影響を除いても11%成長しました。

粗利益率は、前期比2.3ポイント改善の52.0%となりました。

増収効果に加え 販管費のコントロールも機能し、営業利益は542億円、

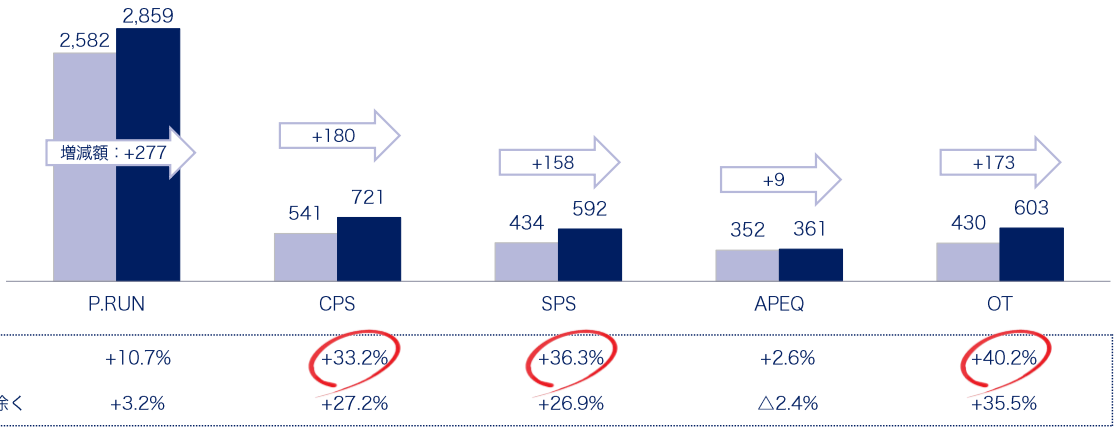
営業利益率は9.5%と前期比で大きく上昇しました。

当期純利益は352億円となりました。

カテゴリー別連結売上高

- ✓ 全カテゴリーで増収。CPS、SPS、OTは30%を超える大幅増収。P.RUNでも2桁増収。
- ✓ P.RUNは全地域で増収。為替影響を除くと前期比+3.2%で着地。
- ✓ CPSは全地域で2桁増収。テニス、インドアスポーツ、ワーキングなどが大きく伸長。
- ✓ SPSは南米を除く全ての地域において増収。主に北米、欧州、中華圏、韓国で30%を超えて著しく成長。
- ✓ OTは全地域で増収。特に、インバウンド売上の影響が大きい日本に加え、欧州、東南・南アジア、韓国でも大幅伸長。

■ FY22 ■ FY23
(単位：億円)



カテゴリー別連結売上高です。

パフォーマンスランニングは全地域で増収、10%を超えるプラス成長となりました。特に日本は約25%、中華圏では30%超、東南・南アジアは約50%の増収でした。

コアパフォーマンススポーツは、33%の増収。テニスやインドアスポーツが好調で、他にも日本はワーキングシューズが大きく伸長。全ての地域で2桁増収でした。

また、スポーツスタイルにおきましては、北米は30%超、欧州、中華圏、韓国で50%程度の成長を示しております。

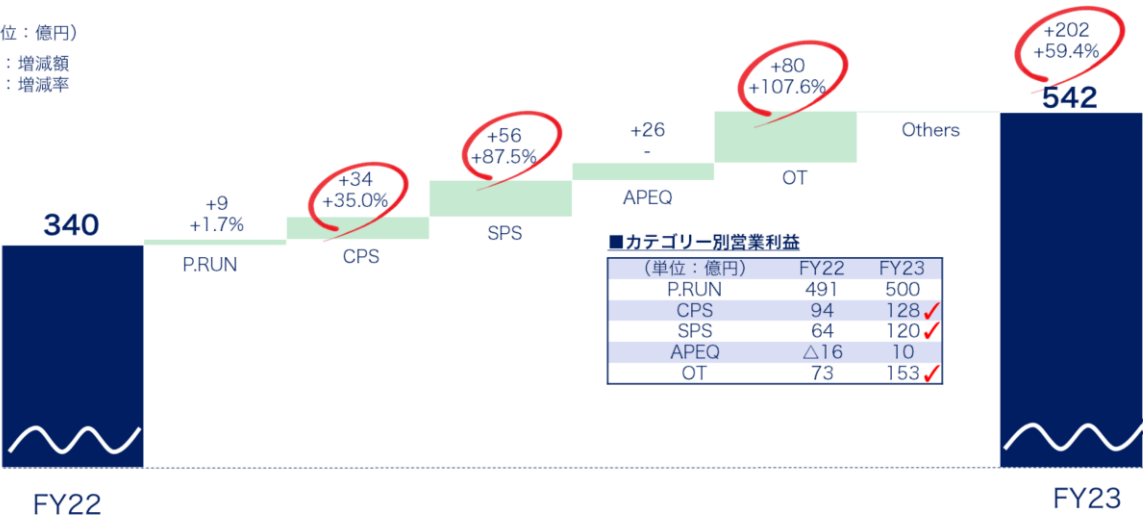
オニツカタイガーは、全カテゴリーの中で最も躍進し全地域で増収。特に日本、東南・南アジア、韓国で大幅に伸長しております。

連結営業利益内訳（カテゴリー別）

- ✓ 全てのカテゴリーで増益。CPS、SPS、OTは主に増収影響により大幅増益。
- ✓ APEQは、カテゴリー経営開始以来初の黒字化達成。

（単位：億円）

上段：増減額
下段：増減率



■カテゴリー別営業利益

（単位：億円）	FY22	FY23
P.RUN	491	500
CPS	94	128✓
SPS	64	120✓
APEQ	△16	10
OT	73	153✓

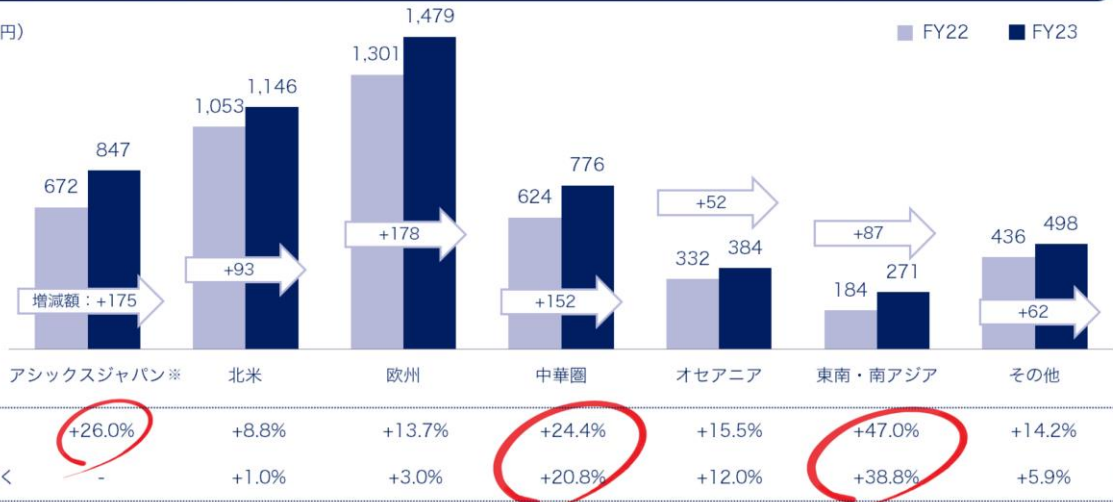
連結営業利益内訳です。

ご覧の通り全てのカテゴリーで増益となり、特にCPS、SPS、OTは大幅増益となりました。

地域別売上高

- ✓ CPSやSPS、OTの躍進により、全地域で増収。
- ✓ アシックスジャパンではインバウンドが大幅増加となり、20%超の大幅増収。
ワーキングシューズやバスケットボールシューズを中心にCPSが約20%の躍進。
- ✓ 東南・南アジアは為替影響を除いても30%超の伸長。インド、マレーシア、インドネシアなどで高成長。

(単位：億円)



※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社の売上も含まれております。よって、この決算補足説明資料においては、他の地域との比較可能性を考え、2022年12月期 第1四半期よりアシックスジャパンとしております。なお、日本地域における売上は、前期 1,234億円、当期 1,358億円です。

© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

地域別の売上高です。

アシックスジャパンは、主にインバウンド売上により、大幅増収となりました。

中華圏は、中国本部設立後の2019年以降、毎年着実に成長しており、経済指標が必ずしも強くない中でも、2023年も20%超と力強く成長しました。

インドを含む東南・南アジアにおいては、約40%の増収となるなど、引き続き高い成長を維持しております。

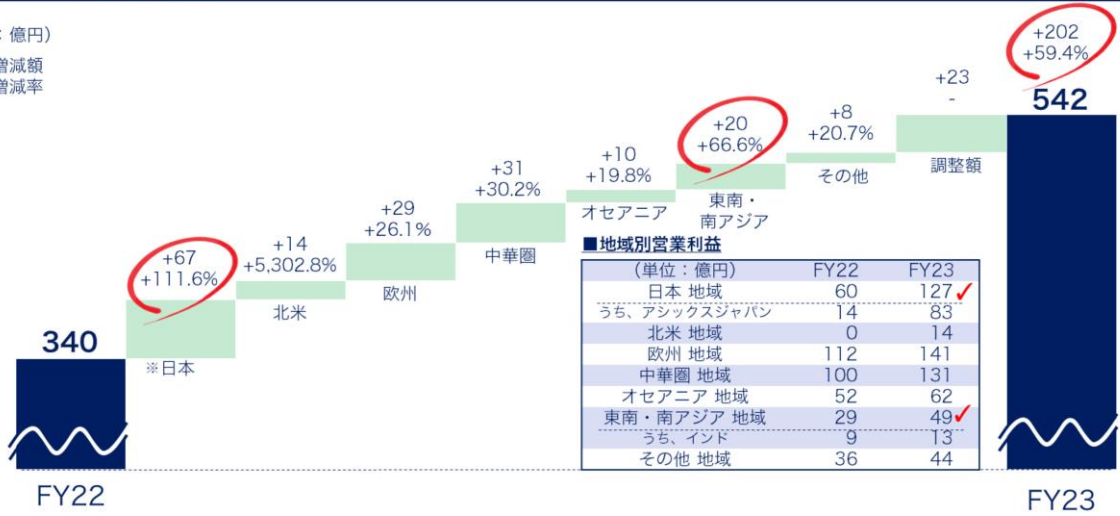
連結営業利益内訳（地域別）

- ✓ 営業利益は前期比50%超の増益となり過去最高、営業利益率は前期比+2.5pptとなる9.5%に良化、
- ✓ 日本地域に含まれるアシックスジャパンでは、大幅増収となったことにより、14億円から83億円へ増益、
- ✓ 成長市場として位置付ける東南・南アジアは60%超の増益、シンガポール（+4億円）やマレーシア（+6億円）、インド（+4億円）が牽引、

（単位：億円）

上段：増減額

下段：増減率



※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。
なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

地域別の連結営業利益内訳です。

ご覧の通り全地域で増益となりました。

連結売上高（月別・四半期別）

■ FY23 ■ 売上速報
■ FY22 ■ 前年同月比%（為替影響を除く増減率）

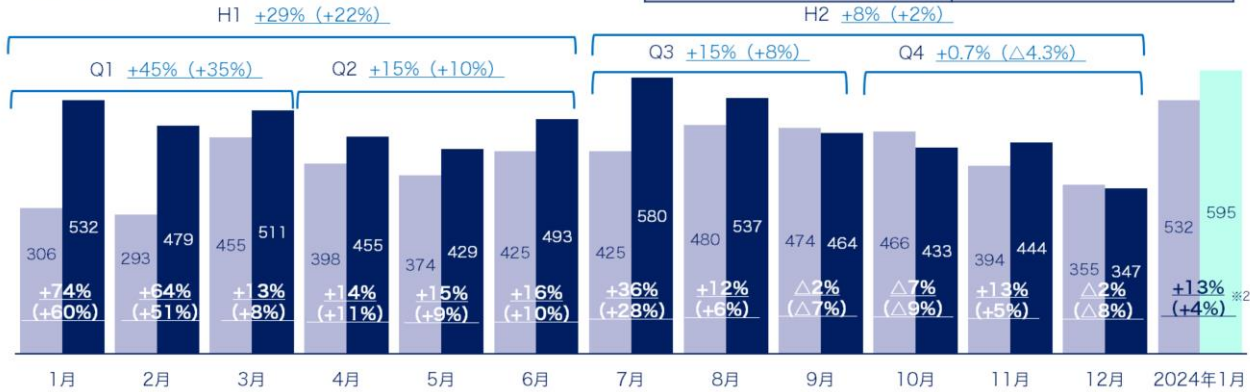


- ✓ 24年1月単月売上は過去最高の595億円。前年同月比+13%。為替影響を除くと+4%の成長。
- ✓ 特に北米と東南・南アジアのパフォーマンスランニング、中華圏のスポーツスタイルなどで大幅増収。
- ✓ 欧州・オセアニアでは、22年物流の混乱の反動などを背景に23年1月で高水準の売上を記録し、24年1月は前年同月比減収に。

■1月度主要地域売上

	売上高	為替影響を除く増減率		売上高	為替影響を除く増減率
連結	595	+4%	中華圏	85	+27%
アシックスジャパン	54	+7%	オセアニア	52	△18%
北米	104	+21%	東南・南アジア	32	+22%
欧州	198	△9%	その他地域	70	+19%

（単位：億円）



※1 2024年1月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じることがあります。また、新型コロナウイルス感染や生産遅延による影響も沈静化しておりますので、連結全体のみの開示とさせていただきます。
※2 増減率については、売却済みのHaglofs ABの前年実績を除いて表示しております

© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.

連結売上高の月次推移です。

2024年1月の売上速報値は前年比13%増と600億円に迫る過去最高の売上となる見込みです。

主に北米と東南・南アジアのパフォーマンスランニング、中華圏のスポーツスタイルなどで大幅増収でした。

一方で、欧州・オセアニアにおいては1月は前年同月比で減収となっておりますが、これは物流混乱の改善により2023年1月の売上高が大きく押し上げられたことが背景です。

なお、増減率については、売却済みのHaglofs ABの前年実績を除いて表示しております。

いずれの地域も計画通りに進捗しました。

2024年12月期 連結業績予想

再掲



- ✓ 2024年12月期は、外部環境の不透明さがあるものの、パフォーマンスランニングを軸に、スポーツスタイルの足元の好調な状況を考慮した結果、売上高および各段階利益はいずれも過去最高となる見込み。
- ✓ カテゴリーではコアパフォーマンススポーツ、スポーツスタイル及びオニツカタイガーが、地域別では日本、中華圏及び東南・南アジアが順調に推移する見通し。
- ✓ なお、当期売却したホグロフス事業の影響を除くと売上高は7.0%成長（為替除く）、当期純利益は27.0%増（為替除く）。
- ✓ 剰余金の配当は、当期の業績やキャッシュ・フローの状況を総合的に勘案した結果、過去最高となる年間70円を見込む。

(単位：億円)	FY23 実績	FY24 予想	増減率	(ご参考) 為替影響除く増減率
売上高	5,704	5,900	+3.4%	+4.8%
営業利益	542	580	+7.0%	+8.9%
営業利益率	9.5%	9.8%	+0.3ppt	-
経常利益	506	530	+4.6%	+6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	352	360	+2.1%	+4.2%

配当金	中間	期末	通期
2023年12月期	25.0円	40.0円	65.0円
2024年12月期	35.0円	35.0円	70.0円

為替レート	USD	EUR	RMB
2023年12月期	140.45円	152.24円	19.86円
2024年12月期	140.00円	150.00円	19.50円

2024年12月期の連結業績予想です。

為替レート的前提は、1ドル140円、1ユーロ150円です。

売上高は3.4%成長の5,900億円、営業利益は7.0%成長の580億円、この結果、営業利益率は9.8%となる見込みです。

なお、前年に売却した事業の影響を除くと売上高は7.0%成長となります。

カテゴリー別・地域別の2024年連結業績予想を決算補足説明資料のスライド61、62に入れております。

なお、剰余金の年間配当は70円とし、過去最高を計画します。

為替相場が業績に与える影響

- ✓ アシックスのビジネスにおいては地域ポートフォリオが分散しており、様々な通貨の為替相場の影響を受ける。
- ✓ 諸通貨に対してドル高になれば各地域主要会社における仕入為替は通常悪化するが、販売価格のコントロールやチャネルミックス及びプロダクトミックスの良化により、近年の米ドル高の下でも粗利益率は改善（2023年粗利益率：52.0%、前期比+2.3ppt）。

	各国における受取・支払通貨に対する影響		コメント
	円安の場合	円高の場合	
売上高			販売による受取通貨に対する円の価値で円換算の売上高は変動
売上原価	 AJPの例	 AJPの例	原則として生産委託工場からの商品仕入は米ドル建て
販管費			経費の支払通貨に対する円の価値で円換算の販管費は変動

Point ① 売上高計上通貨は地域ポートフォリオに沿って分散

販売地域	売上高構成比 (2023年)	販売 主要通貨	2022年期中 対JPY平均レート	2023年期中 対JPY平均レート
日本	14.9 %	JPY	-	-
北米	20.1 %	USD	131.83円	141.17円
欧州	25.9 %	EUR	138.37円	153.18円
中華圏	13.6 %	CNY	19.49円	19.92円
オセアニア	6.7 %	AUD	91.11円	93.64円
その他	4.8 %	-	-	-

Point ② 仕入為替は3年間に亘り予定取引の大半を分散ヘッジしているため 短期的な為替相場の変動による当期の業績への影響は小さい

仕入地域	主要 機能通貨	2022年期中 対USD平均レート	2023年期中 対USD平均レート
日本	JPY	131.83円	141.17円
北米	USD	-	-
欧州	EUR	1.05	1.09
中華圏	CNY	0.15	0.14
オセアニア	AUD	0.70	0.67

為替相場とアシックスの業績の関係について簡単に説明します。

アシックスでは、売上高を計上する通貨は多様な構成になっています。これを円換算した時に、各通貨に対して円安であれば売上高は膨らみ、円高であれば目減りします。

但し、売上原価については、生産委託工場からのシューズの仕入は原則米ドル建てのため、各地域事業会社の機能通貨に対してドル安、例えばアシックスジャパンだと円高ドル安になった場合、仕入為替は良化し粗利率を押し上げることになります。

なお、各地で向こう3年間に亘り仕入予定の大半を分散ヘッジしており、短期的な為替相場の変動が及ぼす影響は大きくありません。

主な予定	
5月10日	2024年12月期 第1四半期決算 決算発表 ライブ配信 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
6月頃	第10回 インベストメントデイ テーマ：コアパフォーマンススポーツ戦略（予定）
8月13日	2024年12月期 第2四半期決算 決算発表 決算説明会 報道機関向け
8月14日	決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
11月8日	2024年12月期第3四半期決算 決算発表 ライブ配信 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
11月頃	第11回 インベストメントデイ テーマ：未定
2025年2月	2024年12月期決算 決算発表 決算説明会 報道機関向け 決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け

最後に、2024年のIRカレンダーです。

6月頃に計画しておりますインベストメントデイでは、今回の決算でも好調なコアパフォーマンススポーツについて取り上げる予定です。

私からのご説明は以上です。ありがとうございました。



© 2024 ASICS Corporation. All Rights Reserved.